

原題：IT'S A WONDERFUL LIFE

素晴らしき哉、人生!

Movie



製作国：アメリカ合衆国（1946年）  
監督：フランク・キャブラ  
上映時間：130分

東北新社よりDVD特別版発売中。

この作品は、以前このマガジンのクリスマス号でも紹介されたことがあったが、我が家だけでなく、無数のアメリカ人に愛されている古典的な映画だ。設定は1900年代前半のアメリカの小さな町で、主人公は人生に退屈したビジネスマンのジョージ・ベイリー。本当は大学に行き、旅をし、世の中を広く見たかったのに、いつも何かの邪魔が入っては、彼のことがよければ「このつまらない田舎町」に縛り付けられていた。加えて、金持ちの銀行員で悪役であるポッター氏が彼の前に立ちだかる。

ポッター氏は、ジョージが父から引き継いだ「ベイリー・ブラザーズ」という、貧乏人にマイホームの融資をする会社を乗っ取り、町

全体まで自分の支配下におこうとする。ジョージ・ベイリーと共同経営者の叔父が会社の金を置き忘れて紛失し、ジョージは危うく収監されそうになる。彼は絶望して自殺を考えるが、その時、天使が現われて助けの手を伸べる。天使は、もしジョージが生まれなかつたら世の中がどうなっていたかを見せてくれる。町じゅうを案内されたジョージは、ポッター氏の悪影響でジョージがいけない町が汚職にまみれるのを目のあたりにする。これによって、彼は、自分がどれほど素晴らしき人生を送っていたのかを思いもかけずに知らされる。最後に、クリスマス・イブの夜、友だちがこぞつてお金を出し合い、借金を肩代わりしてくれる。ジョージこそ町一番の幸運児だと言って。

多くの人がこの映画に共感を抱くのは、ほとんどの人がジョージ・ベイリーの中に自分を見出すからだろう。彼は、平凡な町の平凡な一市民であり、なんとか生計を立てながら、人の役に立つ人間であろうとする。育ちもごく平凡で、少年時代の恋人と結婚し、人並みの生活をしている。それだけでは面白みがなく、意味もないように見える。しかし、この物語を通して、私たちの人生はそれぞれがみな大切であり、たとえ無意味に思えようとも、私たちの真面目とも言える、地道な生き方がなければ、この世は暗く冷たい世界になることを映画は教えている。

家庭生活が、世の煩いから逃れ人生を楽しむ場として描かれている。ジョージの父親は貧者を助けることに人生を献げ、良い模

範を残した。結婚相手（ドナ・リード）もけなげに働き、暖かく幸せな家庭を築いた。そして最後の最後に家族とビジネスを破たんから救うのは、ベイリー夫人である。

裏表のない生き方、正直さ、貧しい者や見捨てられた者を顧みることなど、クリスマスちゃんとしての価値観がしっかりと描き出されている。また、誰もが笑い出したくなるような愉快な会話があり、私たち親子は、何度同じシーンを見、何度同じ台詞を聞いてもその度に楽しんでいる。飲酒のシーンもあるが、これは批判的に描写されている。暴力は最小限で、性的な描写や粗野なことば遣いはない。

本編が全米の人気を博すきっかけになったエピソードを紹介しよう。1946年に公開された当時は「センチメンタルすぎる」と敬遠され興行的にも赤字を出し、数年でおかた忘れ去られた。そして1974年に著作権が消滅しても更新されなかった。そのため、テレビ局が無料でいくらかでも使用できるようにになったのだ。それ以来、1994年にNBCが著作権を更新するまで、多くのテレビ局がクリスマス・シーズンに放映するようになり、幅広くアメリカの家庭の支持を得たのだ。もし著作権消滅という事態が起きなかつたら、これほどの人気を博することもあるいはなかつたかも知れない。

今年のクリスマスも、我が家は「素晴らしき哉、人生！」を見る予定である。お宅にも心からお勧めしたい。

（FJスタッフ ジョン・ベネディクト）